

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400900		
法人名	有限会社 アップウェル		
事業所名	グループホームたくひの里 2ユニット		
所在地	島根県出雲市大津町3645		
自己評価作成日	令和2年1月6日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・**医療連携の充実**…最後まで住み慣れたホームでなじみの方々とお過ごしさせてやりたいと希望されるご家族が多く、医療機関との連携をしっかりとって看取りを行っている。緊急時には主治医と連絡を取って適切な対応が出来ており、入所時から安心していただいている。
 ・**地域との交流を継続**…2005年の開所当時から、ずっと毎週来所される地元ボランティアグループ、保育園児さんたちと交流があり、利用者の楽しみとなっている。近くの神社のお祭りやとんさん参加の他に、近年では年末に奉仕活動で窓ふきに毎年来て下さる地元企業のグループがある。
 ・**利用者主体の介護**…昔からの習慣や、好きなことを継続できるように材料などを準備して続けていただいている。日常生活動作でも自立を支援しており、排泄も自立を保たれている人が複数いらっしゃる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と家族が行きたい所に行きたい時に外出ができるように、職員は地域の名所や食事場所等を把握し外出サポートに取り組み喜ばれている。職員は日々の会話の中から利用者の習慣や好きな事、やりたい事等を聞き出し、どうしたら支援できるか話し合い、環境整備をしながら利用者の望む暮らしの支援に努めている。両ユニットの利用者は自由に行き来し一緒にお茶を飲んだり合同での会食を楽しんだり、自分の好きな所で自由に過ごしている。開設当初から地域の人との関係を大事にして取り組み、行事を通しての交流や、ボランティアグループと馴染みの関係を築き事業所理念の実践に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者の考える理想像を踏まえた独自の理念をもち、管理者、職員ともに理解して実践している。 理念はよく目にするところに張り出してある。	全職員が、「利用者主体」「利用者、職員が笑顔で暮らせるよう」理念を共有して実践するために日々話し合いを行い、確認しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事やホームの行事を通じて長年ボランティアグループ、園児、地元企業らと交流している。利用者の状態も理解してもらえ、馴染みの関係ができています。	開設当初から保育園児、ボランティアグループ、地元企業、近隣住民との関係を築き日常的に交流している。事業所の存在を理解してもらい協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内容やホームのサービス内容をネットで情報発信してもらうとともに、地域の認知症サポーター研修において手伝いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施しており、ホームでの利用者の様子や日常を報告させていただいている。 そこで出た意見をサービス内容に活かしている。	利用者の状況や事業所の取り組み等を報告し、参加者から積極的な意見や助言等を受けてサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護利用者の入所や、事業所の運営でわからないことがあるときなど密に連絡を取っている。今年度は実地指導もあった。	日頃から情報交換や相談等を行っている。介護相談員の受け入れや、安心支援センターとも連携して地域資源の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員の研修終了職員をユニットごとに配置し、年4回の研修を行っている。 ホーム内の会議で話し合い、職員の意識向上を図っている。	各ユニットに身体拘束廃止推進員を配置し定期的に研修をしている。職員にアンケートを実施したり具体例を基に話し合い身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員は虐待防止を推進し、言葉づかいなどを会議で話し合ったり日々気が付いたことを言っている。チーム全体で注意を払うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している利用者がおられ、専門機関に学び確認しながら、理解を深めている。利用者それぞれの必要性も考慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から管理者やリーダーは利用者や家族と面談を重ねて詳しく状態をお聞きしている。契約時は不安や疑問点を聞き、十分な説明をする上についてでもその後も不安などが出来れば聞いていただけるよう呼び掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りで意見を聞かせてもらうよう呼び掛けている。メールも受け付けたり来所時に聞かせてもらっている。運営推進会議に家族が参加され意見を自由に言っていたいっている。	面会時や便りを通じて意見や要望を聞いている。外出や看取りについて等家族からの思いや相談を受け、必要と思われることはプランに反映させ支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は要望書を配ったり職員一人ひとりと面接して意見を聞く機会を設けている。管理者は日々の申し送りや会議で意見を言いやすいよう雰囲気づくりをしたり個別に聞き、反映している。	日頃より職員とのコミュニケーションを大切にし意見や要望が言いやすい環境作りをしている。環境整備や勤務についても意見を聞き働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力ややりがい、実績、勤務状況を把握している。体調にもあわせて、労働時間や給与水準、勤務条件を考慮しており、今年度は専門家と相談し就業規則を見直ししている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や力量に合わせて、研修の参加をすすめ、参加回数を増やしている。資格試験に挑戦もしてもらい、取得の後押しをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で役員同士の交流も深めたり、勉強会を企画している。それを実践に生かしたり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は新入所が続いたが、ご本人の困っていること、不安な事、要望などお聞きして表情などもうかがいながら早期に安心していただくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に話しやすい雰囲気を考え、困っていること、不安な事、要望等に耳を傾けながらまた今後何でも言っていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と十分に話をし、まず何が必要なのか支援を見極め、他のサービス利用も考慮しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築きつつ、出来るところはやっていただき、どうしたらよいかわからない不安が見られたら声掛け等対応して、安心して暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日来所される家族や定期的に面会される家族がほとんどで、その都度相談したり、家族とのイベントをサポートしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方が訪れられることが多い。入所前のなじみの場所へ買い物に行くことも継続している。	家族や知人の面会が多い。馴染みのボランティアとの交流や、近くの店へ出かけた時に家に立ち寄る等思いに沿った支援をしている。地域の祭りでは獅子舞が利用者の居室まで来てくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、職員が仲立ちとなりながら、関係調整することもある。孤立されないように配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても面会に行き本人や家族から話を聞いている。退所後もご家族の相談があり、次に配偶者の入所を申し込まれたり、運営推進会議のメンバーに入られたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、仕草から本人の意向を汲み取るように利用者本位に日々検討している。困難な場合は家族の意見もお聞きしている。	毎日の生活の中で時間をかけて利用者に関わり思いを汲みとるように努めている。出来る事、好きな事、やりたい事などを把握しプランに繋げ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などを詳しくお聞きしているうちに生活していられる中で新たに増えてきたもの、分かったことを情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや、関わり合いの中での体調やADLの変化に敏感に気づき記録や情報共有をして一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員皆でモニタリングを行い、本人や家族へもお聞きして課題や今後のケアの方向性を話し合っている。会議を踏まえて介護計画を作成している。	利用者、家族の思いを聞き、買い物や手芸を続けたい、歌を歌いたい等利用者主体のプランを作成している。毎月モニタリングを行い、課題が解りやすいように記録用紙を改善し、見直しや変更につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録に記入し、申し送りや会議で情報共有している。職員全員が課題を見つけやすいよう、昨年度記録用紙を変更し、見直しもしやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に変化があったとき等、本人やご家族のニーズ、意向に即して柔軟に対応している。入院中の洗濯支援や、外出、外食の付き添いなど取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所、お祭り参加、保育園児との交流、とんどさんなどで地域行事への参加を通して豊かな暮らしを支援している。利用者の楽しく豊かな生活を実現できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医を継続したり、本人、家族の意向をお聞きして適切な医療機関で医療が受けられるように支援し安心していただいている。	入居時に利用者、家族の意向を確認し、医師の協力を得て適切な医療が受けられるように支援している。専門科は家族対応だが希望があれば職員が同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医療、看護を利用されており、すぐ連絡したりして適切な治療や看護が受けられるようにしている。ホームの看護師に気になる事、不安な事も相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が交代で足を運び、情報提供したり、日頃から連携を取っている医療機関に連絡、相談し早期に退院できる体制になっている。退院時にご家族とともに医療機関からの情報を共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際から事業所でできることを説明し、重度化した場合の方針に同意していただくと共に、ご本人、家族の思いを最優先して、時期を見ながらかかりつけ医や看護師との話し合いの場を設けてチームで支援している。	利用者、家族の思いを大切にし、医師や関係者と連携してチームとして取り組んでいる。今年度は看取り希望が多く、好きな音楽を流したり利用者に合わせた環境づくりを行い支援に取り組んだ。家族も泊まる等できる事を行い一緒に支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが作成してあるが、応急手当などについて、まだ訓練されていない職員もいる。早急に研修の機会を作り定期的に持っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回以上の避難訓練を行っている。自然災害や夜間の想定など状況を変えて職員の動きを中心に訓練を行っている。	火災、自然災害、夜間想定を含めて避難訓練を実施している。地域の消防団に協力依頼をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活を送っていただけるように職員が共有し自尊心やプライバシーを損ねないように確認しあひ対応している。	毎月の会議で権利擁護の話し合いをし、その人らしい生活が送れるよう一人ひとりを尊重した支援に努めている。必ず声を掛けてから支援し、入浴時の同性介護等プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースに合わせて希望を聞き、思うように過ごせるように努めている。表すのが困難な方は2択にしたり、思いを言いやすい信頼関係作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思い、その日の体調、習慣などを考慮して、どのようにしたいのかお聞きしたり表情からも読み取り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や毎日の整容、季節や好みに合わせた衣服選びを一緒にするなどしている。行事に合わせて着替えをされる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に野菜を切って準備したり、バイキングで好きな物を自分で取って食べる楽しさも味わってもらっている。テーブル、お盆ふき、下膳など毎日してくださる方もある。	食べる事の大切さを共有し、利用者の力を活かしながら準備や片付け、食事やおやつづくり等一緒にしている。ユニット合同での会食やバイキング、外食等楽しみな場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎回記録して変化に注意したり、形や固さを職員が試食して、一人ひとりの状態に形態を調節し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者本人の力に応じて口腔ケアを支援している。口腔内の状態を観察したり清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをしたり尿意を把握し、仕草を見て声掛けや支援を行っている。自立を保たれている方が3割いらっしゃる。	一人ひとりの状態を把握して見守りや声掛けを行い、少しでも自立に向けた支援ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行って、体操、散歩、階段利用の運動など提供する。便秘からの生活への影響を理解し、水分補給を勧め、ヤクルト、ヨーグルトなど飲食物を工夫して準備している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前にご本人にお気持ちをうかがうようにしている。希望されない場合は清拭にしたり足浴をしたりして支援している。	毎日全利用者に声を掛けて希望に沿った入浴をしてもらえるように支援している。希望や体調によっては清拭、足浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調、明るさ、気温、天候などに留意しながら安心して気持ちよく眠れる環境づくりに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態を理解し薬の処方理由や副作用を確認している。症状の変化を医療連携し申し送りしている。どのような薬を服用しているかをわかるようにファイルしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のなじみのある事や得意な事、好きな事を考慮した役割を提供し生き生きと楽しみのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、秋にはご家族と普段いけないような所への外出も企画しサポートしている。普段は近くの買い物外出や外食などを支援している。	天候や季節に合わせて広場でお茶会や外気浴を楽しんだり、希望者は買い物に出かけたりしている。外出計画を立て家族の参加を得て外出や外食の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員見守りの中で外出時にお金を所持していただくが、理解できる方は少なくなっている。できにくい方にもホームのバザーで金に代わる券を作り買い物していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときには、かけてもらったり取次ぎをしている。遠方のご家族や知人にはがきをかかれることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い、室温調整や換気をこまめに行っている。季節に合わせて壁面飾りや写真を掲示、花を生けており、生活感を感じながらゆったりと過ごしてもらっている。	花や季節感のある飾りつけ、絵手紙、塗り絵等の作品を飾っている。ユニット間の往来や一方のユニットでお茶や会話を楽しんだり、簡易ベットやソファもあり自由に思い々に過ごす事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のソファで休まれたり、テーブルや椅子の配置を必要な時に変えて、気の合う人とくつろげるようにしている。自由に移動してくつろげるように見守りもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染の鏡台やこたつ、寝具を持ち込まれたり、写真などを飾って自分の部屋だとわかりやすくしたり落ち着いた空間を作っている。	利用者や家族と話し合っって使い慣れた馴染みの鏡台や筆筒、椅子等を置いている。面会に来た家族や知人と炬燵を囲んでゆっくり過ごす利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレも目印があり、必要なところには滑り止めや手すりをつけている。エレベータの操作をして自由に昇降されたり、階段も安全に移動が出来るように蛍光のテープを貼り配慮している。		